

「幌延町における深地層研究に関

～研究が三者協定に則り進

町は、今年度、国立研究開発法人日本原子力研究開発機構（以下「原子力機構」という。）から提出のあった『幌延深地層研究計画 令和6年度調査研究計画』、および『幌延深地層研究計画 令和5年度調査研究成果報告』について、「幌延町における深地層の研究に関する協定書（以下「三者協定」という。）」第14条に基づき設置する「幌延深地層研究の確認会議（以下「確認会議」という。）」による内容確認結果を踏まえ、三者協定に則り、幌延深地層研究計画が進められていることについて確認し、その旨を原子力機構へ文書により通知しました。

幌延深地層研究計画の内容確認に当たっては、令和6年4月23日から令和6年8月26日まで、3回にわたり確認会議を開催し、「令和6年度調査研究計画」等に関し、構成員である北海道、幌延町および専門有識者からの質問のほか、道民から寄せられた質問等に対して、原子力機構から回答の説明を受ける形で確認を行いました。確認した事項の概要については、次のとおりです。

【確認会議で確認できた主な内容】

1 研究成果及び研究計画について

○令和5年度の実施状況について

- ・令和5年度調査研究計画書のとおり3つの必須の課題について研究を行い成果を得ており、令和6年度の調査研究計画どおり開始し、遅れや新たな課題は生じていないこと。

○深度500mまでの掘削について

- ・令和6年度の坑道掘削工事は、令和5年度に掘削を開始した東立坑と換気立坑に加えて、西立坑と500m調査坑道の掘削を開始すること。
- ・掘削工事は、退避ルートを確認する観点から、3立坑（東立坑、西立坑及び換気立坑）を同時掘削しないよう計画しており、令和6年度後半には、換気立坑と西立坑の2か所で同時掘削する可能性はあるが、東立坑を避難ルートとして使用する計画であること。
- ・湧水抑制対策について、西立坑では、調査ボーリングにより得られた情報に基づき対策工事を実施していること。また、500m調査坑道では、350m調査坑道からの調査ボーリングに基づき、数か所で対策工事を実施したこと。
- ・現在の地下施設の施設整備工程（令和6年3月13日付け「地下施設の施設整備工程の更新について」で示された工程をいう。）について、作業員の増員や型枠の移設作業の合理化など作業の改善を行い、掘削速度の向上を図ることで、令和7年度末までに全ての施設整備が完了する予定であること。

2 幌延国際共同プロジェクトについて

○令和5年度の実施状況について

- ・令和5年度の幌延国際共同プロジェクト（以下「共同プロジェクト」という。）では、共同プロジェクトで設定した3つのタスク※に係る実施計画や各タスクの詳細な研究工程の承認を行ったほか、情報の収集や整理、共有といった机上の検討を中心に行ったこと。
- ・共同プロジェクトに関し、NUMO等の参加機関が幌延深地層研究センターを訪問した場合の対応状況（日程、場所、実施内容等）について、ホームページで情報発信していること。

※①タスクA：物質移行試験、②タスクB：処分技術の実証と体系化、③タスクC：実規模の人工バリアシステム解体試験

○令和6年度の実施内容について

- ・令和6年度における共同プロジェクトでは、令和5年度に引き続き、設定した3つのタスクに関する研究開発を実施すること。